

大相撲千秋楽



デンマーク・ヘルシンガー市在住

小野寺 綾子

11月中旬から12月の中旬にかけて、デンマークでも日本のように会社や仲間同士が集まってレストランなどでユールフォカスト（クリスマスの昼食の意）という忘年会を催すことが盛んに行われます。

ヘルシンガーには2年前に発足した「日本同好会」という日本に興味のあるデンマーク人が集まる小さい会があります。この同好会は、私が教えていた成人教育クラスの日本語クラスの受講者が、日本語クラスの生徒が少数になり閉鎖された後、日本や日本語の興味を持続したいと立ち上げた会です。皆さん大相撲、合気道、柔道、日本庭園やアニメなどに興味のある人ばかりです。

同好会では、毎年5月はコペンハーゲンにある日本レストランで焼き焼きを食べ、11月中旬には仲間の一人キムさん夫妻宅に集まり、日本からの大相撲千秋楽のテレビ中継を見ながら、食事や酒を持ち寄って忘年会をするのが恒例行事になっています。昨年は11月25日に忘年会がありました。

体も関取のように負けず劣らず大きいキムさんは、大相撲の大ファンです。キムさんが相撲に興味を持ったのは、20年以上前にスウェーデンのテレビが高見山関を取材したドキュメンタリー番組を見たことです。初めて相撲を見たとき、ただの相撲の勝負だけではなく、その背後にある相撲文化や異



日本同好会の仲間たち。写真右端がキムさん、後ろは奥さんのイエッテさん

国の地で立派な関取になった高見山に深い関心を抱きました。今は衛星テレビのユーロスポーツで、月遅れで相撲場所の立会いを省いて、勝負だけを切り取って放送しています。その番組を見て相撲に興味を持つデンマーク人が少しずつ増えてきましたが、15年前キムさんが仕事仲間に相撲に興味があるという、裸の相撲など何がおもしろいのかと、バカにされ笑われたそうです。

現在は日本から相撲雑誌を購読し、JSTVで日本から英語の解説付きで中継を見たり、インターネットで相撲部屋のことを調べていますが、20年前はデンマークで相撲の情報を集めるのは難しく、本や新聞などで相撲のことを調べるのは限られていました。家の地下室はトレーニング室になってお

り、キムさんが握力、筋力運動をする機械がいくつも置いてあります。壁にはもちろん力士のポスターがたくさん貼られています。

御ひいきの関取は引退した千代の富士や安芸ノ島、貴闘力などです。力士の四股名、親方名や引退して力士の時とはすっかり印象が変わった親方の顔など即座に確認でき、本当によく相撲のことを知っています。

2人の子供も成長して手が掛からなくなったので、来年9月に、キムさん夫婦は同好会の仲間3人と念願の日本に行きます。最初はもちろん国技館で相撲を見て、京都、奈良、広島に2週間ほど行く予定です。東京で相撲部屋など訪問できたら、本当に良いのだがとキムさんの相撲の興味は増すばかりです。